



# -Connect- Monthly Times

第**10**号

---

2024年4月発行

---

CKK GROUP

# -Connect- Monthly Times

vol. 10

2024年4月1日発行



株式会社中條重機 常務取締役

## あわ あさ りょう 大瀧 保

株式会社中條重機にて、常務取締役として活躍中の大瀧保。大瀧とクレーンとの出会いは、高校の頃にまでさかのぼる。卒業のかたわら、型枠大工のアルバイトをしていた当時、現場で大きな存在感を放つ1台のクレーンに目を奪われたのがすべての始まりだった。

高校卒業後は自衛隊に所属し、在隊中に移動式クレーンの免許を取得。「あながれのクレーンに携わる仕事をしたい」という思いと、さらなるステップアップへの高い志を胸に、1998年（平成10年）、中條重機の一員として新たな一歩を踏み出した大瀧が歩んできた道のりを振り返る。

### ひたむきに努力し、 知識を身につける

ひとくちに「クレーン」と言っても、その種類は幅広い。すでに免許を取得していた移動式クレーンのほかにも数々の種類があり、大瀧はその一つひとつに興味を持って勉強を重ねた。それぞれの種類の特徴や操

作時の注意などについて、自ら本を読んで学び、実際に運転席では自分なりの工夫を加えつつ、仕事をする毎日を送っていたのだ。

現場での業務のみならず、資格取得にも積極的な姿勢を見せた。仕事の合間と勉強するのは決して容易ではなかったが、「知識や資格は自分のためになる」という考えでモチベーションを高め、数々の資格に挑戦。1級建築機械施工技士、危険物取扱（乙種4類）、運行管理者、鋼材研削免許、車両運転資格など幅広く受験し、そのいずれでも一回合格を果たした。地道な努力を重ねる堅実さと、勝負強さをあらわしているエピソードだ。

### 中條重機で働くことの醍醐味

入社から今日まで多岐にわたる現場に立ってきたが、特に印象に残っている仕事がある。それは2008年（平成18年）頃に担当した、ダム建設でのことだ。夜間のコンクリート施工等を任された大瀧の仕事は、完全に日が落ちた夜8時頃からスタート。わずかな明



からのなかでクレーンを動かしていると、自分が機械の一部になったような不思議な感覚に驚かれた。疲労や脱力はもちろんあったが、それを意識して「つらい」と思ったが奮起、乗り越えることはできない……そう感じた大橋は、心を無にして作業に没頭。そうして朝日が昇る時刻に仕事を終えて帰路についたのだが、そのような日々を繰り返して全工程が無事に終了したときの安堵感は、今でもありありと心に残っているという。

「何もなかった場所にも、ダムや建物が少しずつできあがっていく。その過程を遠征で見られるのが、この仕事のやりがいだと思っています」。

## 使命感に駆られて

2008年（平成20年）10月には、滝沢営業所の所長に就任。その後も着々と前線を続けてきたが、すべてが順調調和に進んだわけでは決してない。今でも忘れられないのは、2011年、東日本大震災が起こった後の話だ。見る影もなく崩壊した建物や道路に、大橋は深く胸を痛めた。何か行動をしたいと思いつつもどうすることもできず、もどかしい日々が半年ほど続いた。それでも時間が経つとともに少しずつ進捗はつながら、取りかかれる作業も増えていく。大橋を突き動かしたのは、「誰かがやらなければ」という使命感だけだった。

「その『誰か』が、たまたま私だっただけです」。同時からの強い責任感は、大橋の性とも言えよう。

## 全社一丸となり、未来を切り拓く

2021年12月には、常務取締役として次のステージへと歩みを進めた大橋。ともに働く仲間たちのモチベーションを維持できるよう、社内全体での調和を大切にしているという。「2024年開業に先応ずるため、管理面においても時代に合わせたかたちで注力していきたいと考えている」。

「個々の従業員のレベルの高さは、中継重機の強みの1つだと思います。今後も一人ひとりのレベルアップを通じて会社全体の底上げをはかり、CKKグループ内で種々な存在感を築ける会社として成長を続けたいと考えています」。

ビジネスにおいて、力強く未来を見据える挑戦者であると同時に、プライベートではハイビスカスのほか、7年ほどとミカドブルーを育てている意外な一面もある。植育園のスタッフでも育てるのが難しいと聞き、挑戦しようと思ったのだという。仕事、プライベートを問わず、高い壁にチャレンジする精神を忘れない大橋は、この先も活躍の場を広げていくに違いない。



2024年10月

＼バックナンバーはこちらから！／

グループ雑誌ウェブからもご覧いただけます！



ID:ckk

PW:ckkg1963

# 縁の下の 力持ち

会社にはなくてはならない存在だけど、その業務内容については知らない人も多い。この企画では、そのような「縁の下の力持ち」にスポットを当てます。日々業務に邁進する皆さんの仕事ぶりに迫ります！

vol. 1

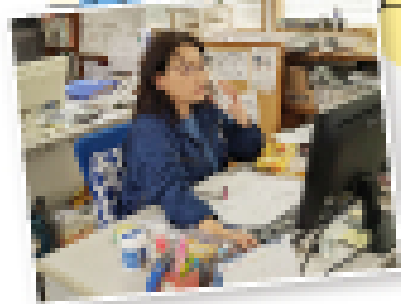


CKリース千葉株式会社  
部長

三塚 智恵美さん

## 主な業務内容

経理業務/小口現金・売掛管理・売掛入・入金・買掛支払管理など  
総務業務/入社・退社に伴う手続きや、その他手続き業務など



## 業務で大変なところ

ソフトを自らに扱うことが難しいです。以前は少し経理業務には関わっていましたが、総務業務は未経験で、新人社員や総務のソフトの扱い方も全くわからない状態でした。当時の経理の皆さんも優しく教えてくれたら、ソフト内のヘルプコーナーやインターネットで調べたり、経理の相談などは受けていたテキストで調べたりと、一つひとつ自分でやらせてもらったことがとても大変でした。

経理業務は会社全体のお金に関わる重要な仕事で、総務業務も同様で、ミスと手続が厳格です。このように、自分がミスすると多くの人に迷惑がかかってしまう仕事なので、非常に緊張します。

## CKKグループで働くやりがい

先輩・仲間が優しく、「困っている人の手助けがしたい」「皆さんの仕事がスムーズに回るといいな」と考えて日々業務を行っています。

そして、働きが楽しくて生活で使えるようになるためにも、しっかりと仕事を覚えていかねければいけないとやりがいを感じています。

### メッセージ

中途入りの先輩の方をはじめ、お言葉のおかげでながら、業務を進めることができています。これからもどうぞよろしくお願いします。



## 業務で大変なところ

ここ数年、機械の改良新機種のバージョンアップが進み、新しく覚えなければならないことが多く増えているのが大変です。

例えば、製作ミスや作業順序で機械が止まった場合や、不良箇所のお話などは、作業での内容から変わっているのだからわからないところもあります。

その場合は、メーカーの担当者へ直接電話で確認して教えるしてもらっています。覚えることが多く大変ですが、知識が増えても楽しいことには関わったり、修理したりすることで魅力を感じますし、楽しみながら行っています。



CKリース千葉株式会社

高橋 万二さん

## 主な業務内容

クレーン車の整備・点検



## CKKグループで働くやりがい

物が入って来ないものを動かすときや、お客様から感謝のお言葉をいただいたときにやりがいを感じます。今は、私を含め2人で整備・点検しているので、手数が足りず時間がかかるともありませんが、楽しいことを覚えて業務に活かしていきたいと思っています。

### メッセージ

困ったときは、中途入りの先輩の方、ぜひフォローをお願いします。



# カンパニーヒストリー

## ～CKKグループ 60年の歩み・前編～



60年の歴史のなか、様々な役割を担い成長してきたCKKグループ。前編となる今回は、設立から2010年までの歴史を振り返ります。社歴20年になる経理部の倉田さんには、入社当初や大変だった年について語っていただきました。「そんなことがあったんだ」と新たな発見につながることでしょ。

1963年

建設工場として創業

1971年

「中部工業株式会社」と名称変更  
カレン→販売課発足  
次期製作所建設サービス工場発足となる



1993年

「中部建設工業株式会社」設立  
代表取締役社長職に倉田氏が就任

1979年

「シーケイケイ株式会社」設立

2000年

SUMITOMOの販売代理店となる

1988年

「レンタル中部株式会社」設立  
レンタル事業開始

1988年

中部工業株式会社  
資本金を200万円に増資

2003年

「中部工業株式会社」シンガポール支店開設

1992年

グリーンリース事業開始  
株式会社事業開始

2005年

SE建築の販売代理店となる  
L&D建設の販売店となる

2007年

新社協会の  
設立議案終了  
日本車協会の販売店となる



2008年

中部工業株式会社 特別賞賛賞、  
賞状授与、業務委託で新設設立

2010年

中部工業株式会社の代表取締役社長職に就任  
千代田のCKKリース株式会社を  
事業継承により取得設立

経理部長 **倉田 有美子** さん

### 2004年のCKKグループ

私が入社した2004年は先月の会長がの存命でした。金年始めに親戚部が揃っていたように記憶していますが、現実的には少なく、本社は年より70人以上は少ない人数で、年数も年より薄かったです。

### CKKグループ変革の年

7年ほど前、先代の会長が亡くなったときです。会長が全てをとりまとめていたので、置私が急いで大変でした。経理においては大きな金額の取り込みはいつも会長の確認をとってから行っていたので、苦悶したことを覚えています。

### 大変だった年

3年前、健康だった上司が急病で亡くなったときです。当時経理は私と上司のみ。重要な取引先は全て上司が抱えていたので、急に対応することになり、どうすればいいかわかりませんでした。以前の資料を見たり、社長の御子である経理部長さんに助けってもらったりして、なんとか乗り切りました。

### 今後のCKKグループへの期待

グループ会社も経営面でも強くなっており、これからより大きくなっていったらいいと思います。

# グループ内 他社に質問!

同じグループで働いていても、意外と日頃は直接関わることの少ないグループ内他社の皆さん。日頃は関わることの少ない他社の皆さんに、日頃の疑問をぶつけてもらいました。新たな発見があるかも……?

株式会社中核重機

福島 美紀さん  
からの質問

**電話対応で心がけていることは何ですか?**

顧客対応もグループ内の対応も、電話での仕事の依頼が多いので、気にかけています。

**今後、挑戦してみたいことはありますか?**

50歳を過ぎてから経理の仕事をするようになり、「もう一度学校へ行って勉強したい」と思うことがあります。藤澤さんはどうですか?

**電話対応では、「元気よく」心がけています。**

電話でのやり取りは多いものの、会話しなかったり、特に明るくへちへちと対応するようにしています。また、早口にならないように気をつけています。

まっとう、「どんな人なのかを想像したり、それをやっていますよね」の**合後は、感情を楽しまたいと思っています!**

10年前から英語、1年前からペンを握り始めました。筆ペンで年賀状が書まなくて挫けた書道でしたが、「精神は書道です。」と言えるように楽しんで続けられたらと思っています。芸術センスは強弱ですが、書道も今後挑戦したいことの1つです。

中部工業株式会社

服部 由美子さん  
が回答します!

中部工業株式会社  
関東営業所

中嶋 敏浩さん  
からの質問

**関東内の形骸(異種)はどこですか?**

**また、関東圏でカバーできていない地域はありますか?**

グループ企業の一員として、営業活動で役に立てることがあれば協力したいと考えています!

**商談が成立しなかったとき、**

**どのようにして気持ちを切り替えていますか?**

商談に的向きに仕業に取り組みため、気持ちの切り替えは必須です。営業として各々工夫はしていると思いますが、他の人のやり方も参考にしたいと思っています。

**得意先の業種は建設レンタルで、新潟県、北海道札幌、福岡、鹿児島以外は、まだカバーできていない地域です。**

**商談が成立しなかったときは、車で1人、道幅なりに声を出しています。**

**不満や愚痴を口にするとスッキリするので、オススメです。**

その後商談を知り取り、質問を考え、失敗したところは修正します。しかし、自分の失敗以外が原因の場合は、基本的に結果論が上がったと解釈し、切り切つて考えるようにしています。

関東鉄工株式会社  
課長

松澤 陽介さん  
が回答します!



中部工業株式会社  
整備部 本社工場長

吹田 健治さん



社歴を重ぬる社員の方々に、大変だった仕事を振り返っていたらこの企画、海外での仕事を数多く選んできた吹田さんが取り上げられるのは、「命の危険を感じた」というバキスタン出張。日本ではなかなかできない経験を積み、そこから学んだことも伺いました。

## 大変だったエピソード

### 命の危機を感じた バキスタン出張

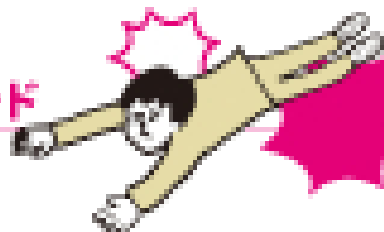
今まで東南アジア(ベトナム、タイ、インドネシアなど)を中心に数多くの海外出張をしてきましたが、一番記憶に残っているのがインフラ整備の仕事で訪れたバキスタンです。気候があまり良くない国だとは聞いていましたが、想像をはるかに超えた出来事ばかりでした。空港から車で30分間かけて現場に行く際、自動車を手にした警察官が乗る車両が私たちの車の前後を挟みながら、時速100km近くのスピードでノンストップのカーチェイス。決断で歩行者と変わらない風速しか目撃できないときは、警察官が車から降りて騒動してくれました。私たちのような外国人を捕縛してグリタに引き渡すと、一生懸命で警らせるお金がもらえるらしく……、車から外の様子も見えないため、思わず泣き止みました(笑)

ようやく現場につくと、そこは有刺鉄線が張り巡らされ、警察官が交代で見張りにつく刑務所のような場所でした。現場に入るまでに3回のゲートチェックを受け、車両の選擇がないが鎖を使いながら隅々まで確認されます。部屋に入るまでもIDチェックを毎回受けるという厳格ぶり。ここまで命の危機を感じる経験はなかなかありません。車から見る景色も日本とはまったく異なります。乾燥し、ゴケゴケした音が地平線の先まで続いている。まるで火薬に似たかのような光景が、スケールの大きさを感じました。

### 海外出張の頼もしい相棒 前田さん

現場の中では、クレーンの組み立ての運転指導などを行いました。バーバロック機が動き、ブレーキが壊れた(動かなくなった)クレーンを修理したこともあります。このような作業をする際には必ず、現地の作業員に手を動かしてもらいます。私が現場で指示を出すなかでもどうしても手が動かせないときは、一緒に出張に行った専任センター長の前田さん(びょうき)の助けを頼み、手配などの準備作業を進めてくれました。私が現場に専念できるのは、すべて前田さんのおかげ。海外出張をする際にはいつも同行をお願いする、頼もしい相棒です。

# 大変だった あの仕事



## 経験から学んだこと

### 自分を信じ、その場で最善をつくす

多くの海外の現場を経験し、自分を信じることの大切さを学びました。海外の現場では事前にお話ししていた道具と違うものが準備されていることも多くありますが、どうするかの手順に迷う時間すらありません。このような状況でも、諦めずに自分を信じ、今あるもので作業を完了させることを目指しています。

### 大変だった頃の自分にアドバイス

今の自分のスタイルを受け、と伝えます。ぶれずに、自分を信じて、その時々で最善の判断を下し、困難な状況に対応しながら進んでほしいと思います。



# -Connect- Monthly Times

OKK GROUP

拉納圖 T-Connect- Monthly Times, vol.10

2024年4月版